

医政メモ Q&A

菅政権に交代して

Q：鳩山政権は何故崩壊したの

A：致命傷だったのは、鳩山政権の支持率が、マスコミでの世論調査で、20%を切ったことです。このままでは参議院選挙を戦えないと、地方からも参議院選挙候補者から、怨嗟の声が届いていました。最後は、沖縄の基地移設問題です。

5月までに沖縄以外に移転させると、話していたのが結局、元の自民党案になってしまい、沖縄県全体の信頼を裏切ったことです。鳩山さんは、言葉が軽い、発言の重みを理解してない首相でした。人の話を聞く姿勢、優しい性格が決断を要する首相向きでなかったと思います。

Q：医療に関してはこれからどうなる

A：鳩山政権下では、政調会長が廃止され、民主党への要望、陳情はすべて小沢幹事長とその周囲を固める副幹事長を通す形となりました。その為、厚労相政務3役と折衝するよりも、小沢前幹事長と直接話し合えるパイプを持っている人がいれば、そちらを通すほうが、陳情がスムーズでした。パイプを持ってない団体、例えば、経団連は、小沢さんと会うこともできず、陳情はまったくできず、要望を述べるのが精一杯でした。国会議員も地元から陳情を受けても、副幹事長に伝達するだけで、自分の政策に関する意見も述べる場がない状態でした。要するに、党は小沢さんが牛耳ってたんですね。今後は、政調会長が復活し、各議員への陳情が反映される場ができました。そういう意味では、現日医執行部は、小沢さんとのパイプが強かった分、小沢さんが引いて、これからどうなるか危惧されますが、各地方医師会が、個別に国会議員に陳情し、それが政務調査会で反映される可能性が出来、医師会自体としてはパイプがなくなったと、そん

なに悲観しなくても良いかと思います。唯、7月の参議院選挙の結果、日医推薦の医系議員が0になったのは、由々しい事態ですが...

〔最小不幸社会の実現〕、菅首相が掲げるkeywordですが、彼は市民運動家の故市川房枝氏に師事していたことがあり、鳩山首相に比較すると庶民の生活実感を理解できる政治家だと思います。ただ女性問題で失脚したように脇が甘い人です。それと他人の意見を聞かない性格です。これは小泉元首相と同一で、却って首相としての人気が出る要因を持っているとも言えます。消費税を、10%に上げたいと唐突に発表しましたが、いずれ消費税問題は避けて通れない問題ですが、民主党の総選挙前のマニフェストを見るにつけ、違和感を感じるのは皆さん一緒だと思います。参議院選挙の結果が出ましたが、やはり、消費税問題が響き民主党が惨敗しました。これからの政局はますます流動的で予測がつかませんが、医療に関しては、自民政権が医療費削減で非難され政権崩壊の一因となったことを、民主党は学んでいます。長妻厚生労働大臣も会見で、社会保障費の増加分は守らなければならないと述べています。医療ツーリズムとか、注視しなければならない問題はありますが、医療費全体として、抑制政策はとりづらいいと思います。

Q：みんなの党は期待できるの

A：今回、参議院選挙で躍進した党です。その施策、アジェンダは小さな政府志向で、公務員削減、法人税下げ、消費税上げには反対です。医療に関しては、明確ではないですが、小泉政権路線の継承と言われています。市場原理主義の自己責任論に回帰しないよう注視しなければいけません。

(政策部長 宮崎 誠一)